

学校名(香美市立 片地小 学校)

学校教育目標 「 考え、伝え合い、学び合い、活かす 片地の子 」

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	評価指標(目標に向けた具体的な取り組み)	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	評価
教育課程・学習指導	B	○伝え合う力が身につき、生活に活かすことのできる子どもの育成 ・道徳、国語、算数 を通して	① 心の教育の推進	① 道徳の授業研究の継続 【全校研での授業公開2回実施】 【全教員最低1回は授業公開】	① 全校研2回(低・高)授業公開ができた。週1回の授業の積み上げも行っている。道徳参観日がインフルエンザの流行でで延期になったが、3月に実施の予定。	○ 心の教育の推進 ・全員1回は、道徳の授業公開(道徳参観日の実施) ・体験活動の重視 ○ 国・算を中心にした「学力」の向上 ・学力診断テストの分析、対応 ・PISA型読解力の育成 ・ブロック研で、算・国を授業研究 ○ 言語能力の向上 ・作文能力の向上(条件付きの中で) ・読書力の向上	昨年度の課題も改善され、全国テスト結果も上昇している。また、家庭での学習ができていると言う児童も12%上昇する等着実に成果は出ている。外国の児童も転入して来た中、短時間で効率的な授業にも取り組んでいた。道徳教育の心の安定を基盤とした学力の向上の取り組みはすばらしいので、今後も続けてほしい。ただ、上級生の中には授業に集中していない児童も見受けられるので、改善に取り組んでほしい。	A
			② 学力の向上	② 算・国の授業研究の実施(ブロック研での授業公開) ② グループ学習の研究【学び合いのあるグループ学習の確立】 ② 家庭学習の推進【学年の基準時間のクリアー 12月までに】 【アンケートによる実態分析 学期に1回】	② 算数、国語とも実施。全員参観ができなくても、低・高のブロックで研鑽を重ねた。 ② グループ学習、ペア学習等、互いに自分の考えを伝え合う、学び合いのある学習を各学級で実践してきた。 ② アンケートによる実態分析を、1学期、2学期と実施した。12月段階で、すべての児童が基準時間クリアーしていないが、3学期には目標達成できるよう、子ども達や、保護者へ便り等を通じて啓発を行っている。			
			③ 言語能力の向上	③ 当該学年の漢字の習得【3月までに 各学年8割】 ③ 作文能力の向上	③ 小テストなどを繰り返し行い、定着を図り、3学期には各学級の児童の8割は習得の予定。 ③ 行事ごとに振り返りを書いたり、水曜日のチャレンジタイムを活用し、文づくりにとどん取り組んできた。低学年ではできるだけ、各授業で、書く時間を確保するようにしている。			
生徒指導	B	○豊かな人間関係作り ・相手の立場に立って考え行動できる子	① 児童の生活実態把握	① 生活実態調査を通しての個に応じた指導の推進【保護者への啓発・・・学校だより、個人懇談】 ① 保小の連絡会、共同研修の実施【年 最低1回】	① 学期ごとに実施し、保健便りや学級便りで結果を保護者に出している。児童へは、保健委員会が集会で発表している ① 3学期に行う予定。夏季休業中の職場体験学習を通して保育士として1日勤務し、幼児の様子を知る努力をしている。	○ 一人一人が生きる学級経営の確立 ・学級経営の情報交換(学期に2回以上) ○ 体験活動の充実 ・地域に還元できる体験活動の推進	昨年の課題も改善されている。挨拶がすばらしい。道徳教育を基盤とした生徒指導が定着し、四国大会で高知県代表となるなど、着実に成果は現れ、定着しつつある。5年生中心のちょボラ(ちょこっとボランティア)もすばらしい取り組みである。今後も継続して実施してほしい。	A
			② 規範意識の向上	② 基本的なルールについての共通理解 ② 道徳、人権教育との関連を図った授業の推進	② 教育計画の該当ページをもとに、職員会でその都度理解を図っている。 ② 心の教育ということで、相手意識に立った行いができる授業作りを推進している。			
			③ 体験活動の充実	③ 心の育成に向けての花の栽培、全校稲作体験【縦割り班での取り組み、一人一人の活動の振り返り】	③ 1・2年生が芋を栽培、3年生以上が稲作で実施した。「花の栽培」は3学期実施予定。			
保護者地域との連携	B	○児童の健全育成に向けて地域がつながる学校作り	① 保護者・地域の応援団の設置、活用	① 地域・保護者を巻き込んだ取り組みの推進【稲作体験活動サポート、花の栽培、ふれ愛かたじ】	① 稲作応援団を募集し、8名の応援団ができた。花の栽培は、2年生が、高齢者学級の協力を得て行う予定。ふれ愛かたじは、1月31日に実施予定。	○保護者・地域からなる応援団の増 ・クラブ、さつまいも栽培等 ○学校評価の維持 ・アンケート見直し ・民生委員会(学校との)を学期1回実施) ○工科大との連携強化 ・学習サポートの人員と時間帯の増 ・「ふれ愛かたじ」へ協力体制の設置	読み聞かせ、パソコン教室、音楽会など高知工科大学との連携はすばらしい。大いに可能性を含んでいながら、情報通信、地域への呼びかけ、森林センターなどでの連携などが十分とは言えない。また、地域父兄の参加の多くなるような土曜日、日曜日も参観日や行事設定等も検討してはどうか。主要行事(運動会やふれ愛かたじなど)の連絡は各自治会長からの回覧も検討してほしい。特に行事の情報通信の改善をお願いしたい。	B
			② 学校評価の推進	② 学校の取り組みの発信(地域へも) 【学校だより ・PTA役員会 ・片地の子を育てる会等でその都度説明】 ② 保護者 地域関連機関からの情報の積極的な受容【アンケート実施 ・ボランティアとの情報交換】	② 学校教育目標や、その都度の行事を発信した。 ② アンケートの実施で情報の集約を図り、学校経営に活かしている。「読み聞かせの会」に工科大の学生も参加し、子ども達も喜んでいる。			
			③ 工科大との連携の活性化	③ ICT活用に向けての支援【4年生以上、パソコンクラブ】 ③ 学習サポートの要請【放課後プランの一環】	③ 4年生は、パソコンの情報教育の補助として交流学習ができている。(7~8回) ③ 放課後、工科大生が1・2・4年生に入り、子ども達の加力学習のサポートをしてくれている。			
特別支援教育	S	○一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制の確立	① 校内委員会の活性化	① P→D→C→Aサイクルによる校内委員会の運営(月1回) 【3学期には4月よりは当該児童の諸能力向上】 ① 特別支援教育研修の推進(年に3回) 【講師を招いて学期に1回は実施】	① PDCAサイクルによる支援会の実施ができている。 ① 学期ごとに講師を招き、支援を要する児童の理解や適切な対応について学び合うことができています。	○ 校内委員会の充実 ・PDCAサイクルによる校内委員会の運営 ・特別支援教育研修の推進 ○ やさしさのある学級集団作りの展開 ・自己肯定感の向上、助け合い、支え合う学級作り ○ 保護者・関係機関との連携 ・保護者との情報交換による信頼関係の確立 ・保育、中学校との連携	児童の興味のある天蚕の飼育を通じての発表などを通じて、生き生きとした教育や専門の講師の指導、校内委員会の充実など十二分に実施されている。また、先生の熱意が伝わってくるすばらしい取り組みを成されている。ただ、評価委員として全国に誇れる特別支援教育とはどの程度なのかなど評価が難しかった。また、状況により普通学級での授業も増やし、本人も他の児童も粋な計らいのできる授業も検討したらどうか。	A
			② やさしさのある学級集団作りの展開	② 自己肯定感の向上、助け合い、支え合う学級作り【QUテストの活用、学級経営の取り組み情報交換】	② Q-Uアンケートの研修を昨年に引き続き行い、分析、活用について学び合った。児童理解の時間を使って、児童の学級の様子や情報交換する場を持っている。			
			③ 保護者・関係機関との連携	③ 保護者との情報交換による信頼関係の確立【普段の連絡、家庭訪問、懇談等】 ③ 保育・中学校との連携【年に最低1回は情報交換会を実施】	③ 児童に問題行動があった時には、必ず連絡を保護者にし、その後しばらくは、児童の様子を知らせるようにしている。 ③ 3学期実施の予定。			
安全教育	A	○危機回避能力の育成 ・発達段階に応じた「自分の命は自分で守る意識の向上」	① 児童自身のP→D→C→Aサイクルの意識化	① 個人評価カードによる実践(地震避難) 【個人評価が次第に上がる】	① 実施している。3学期には、予告無しに実施の予定である。おそらく、その時に来年度に向けての課題が見えてくるはずである。	○ 児童自身のP→D→C→Aサイクルの意識化 ・個人評価カードによる実践 ○ 安全管理の授業の推進 ・専門機関との連携による授業の実施 ○ 保護者・地域の連携の推進 ・参観日等を利用した安全学習の実践	防災訓練で引取り訓練なども実施されている。訓練時のおさない、かけない、しゃべらない、もどらないの、お、か、し、も、を各自でカードに記入する個人評価カードなど工夫されている。不審者対応訓練も成されている。ただ、安全マップの作成をするというそう良くなる。交通安全教室は実施しているのに資料や説明が無かったので改善してほしい。	A
			② 安全管理の授業の推進	② 専門機関との連携による授業の実施【不審者対応を年2回は実施】	② 年2回実施している。来年度は、全校対象でなく、学級への出前講座的なものも考えている。			
			③ 保護者・地域の連携の推進	③ 参観日等を利用しての安全学習の実践【1学期 救命法 2学期 引き取り訓練を地震避難訓練とセットで】	③ 実施している。救命法の参加人数を増やすためには、もう少し喧嘩の必要がある。			